

2019年2月7日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <https://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川村 和夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 IR広報部長 (氏名) 古田 純

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 2019年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	950,698	1.5	79,604	10.3	80,903	8.9	61,893	22.0
2018年3月期第3四半期	936,824	0.3	72,168	6.2	74,312	10.4	50,720	9.6

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 63,257百万円 (0.8%) 2018年3月期第3四半期 63,789百万円 (57.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	426.80	
2018年3月期第3四半期	349.30	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	1,025,064	562,762	51.6	3,644.24
2018年3月期	925,237	495,177	52.7	3,360.70

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 528,539百万円 2018年3月期 487,310百万円

「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等になっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		57.50		72.50	130.00
2019年3月期		65.00			
2019年3月期(予想)				65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,265,500	2.0	101,000	6.7	101,000	5.3	71,000	15.9	489.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2 社 (社名) KMB株式会社、KMバイオロジクス株式会社、除外 1 社 (社名) KMB株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	152,683,400 株	2018年3月期	152,683,400 株
期末自己株式数	2019年3月期3Q	7,649,187 株	2018年3月期	7,680,613 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	145,020,074 株	2018年3月期3Q	145,207,376 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]7ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

(アナリスト・機関投資家向け電話会議資料の入手方法について)

当社は、2019年2月7日(木)にアナリスト・機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。この電話会議におけるプレゼンテーション資料および音声情報は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「2020中期経営計画」の初年度を迎え、基本コンセプト「継続的戦略課題への取り組み」と「成長に向けた新たな挑戦」に基づき、「コア事業での高シェア・高収益の実現」「海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大」「健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け」「構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服」「経営基盤の進化とCSRの推進」に向けて取り組みを進めています。

2019年3月期は、2020中期経営計画の達成に向けて、食品・医薬品の両セグメントともにコア領域・成長領域に経営資源を重点的に投下し、さらなる売り上げ拡大に取り組むとともに、海外事業の展開も積極的に進めています。また、食品セグメントでは物流費や人件費の上昇、医薬品セグメントでは薬価改定の影響を大きく受けるなど両セグメントともに厳しい環境下において、費用の効率的な支出や生産性向上に取り組んでいます。

当第3四半期連結累計期間の売上高は9,506億98百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益は796億4百万円(同10.3%増)、経常利益は809億3百万円(同8.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は618億93百万円(同22.0%増)となりました。

なお、2018年7月2日付で当社および当社の事業子会社であるMeiji Seika ファルマ株式会社は、一般財団法人化学及血清療法研究所の主要事業を現物出資により承継したKMバイオロジクス株式会社の株式の一部取得し、連結子会社化しました。

(単位：億円)

	2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減額	主な増減要因
売上高	9,368	9,506	138	詳細はセグメント別の概況に記載
営業利益	721	796	74	詳細はセグメント別の概況に記載
営業外収益	34	30	△4	為替差益△6
営業外費用	13	17	3	為替差損+5
経常利益	743	809	65	—
特別利益	50	134	83	負ののれん発生益+65、固定資産売却益+24
特別損失	42	57	15	災害(地震、台風等)による損失+13、減損損失+5、固定資産廃棄損△15
税金等調整前 四半期純利益	751	885	133	—
法人税等	235	244	8	—
非支配株主に帰属する 四半期純利益	8	22	13	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	507	618	111	—

セグメント別の概況は次のとおりです。

①食品セグメント

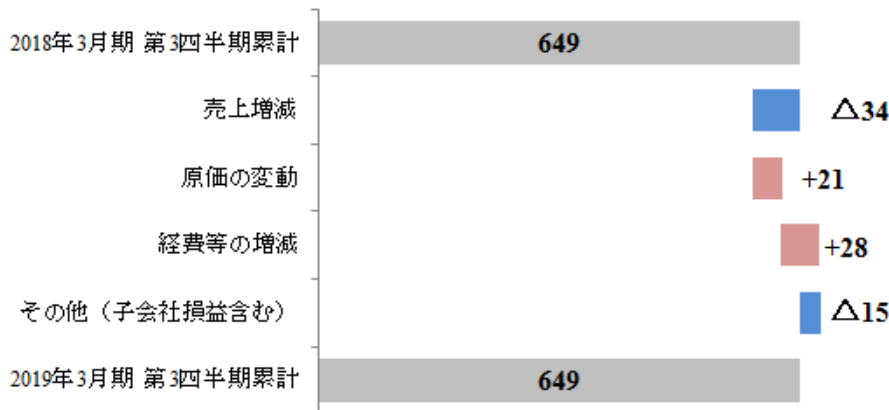
- ・売上高は前年同期を下回りました。加工食品事業、栄養事業、海外事業は前年同期を上回りましたが、プロバイオティクスの減収により発酵デリー事業は前年同期を下回り、菓子事業は取引制度変更の影響やチョコレートが減収となったことから前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、主力のプロバイオティクスやチョコレートの減収による影響を、宣伝費等の削減により補い前年同期並みとなりました。

(単位：億円)

		2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
食 品	売 上 高	8,155	8,031	△1.5%
	営 業 利 益	649	649	△0.0%

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売 上 高				営 業 利 益			
	2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率		2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
発 酵 デリー	2,545	2,480	△2.5%	発 酵 デリー	365	341	△6.5%
加工食品	1,349	1,375	1.9%	加工食品	62	70	13.1%
菓 子	996	876	△12.1%	菓 子	152	148	△2.2%
栄 養	667	676	1.3%	栄 養	113	113	0.3%
海 外	318	354	11.1%	海 外	6	10	60.3%
その他 国内子会社	2,276	2,267	△0.4%	その他 国内子会社	40	34	△14.5%
				全社共通費	△89	△69	—

【発酵デairy事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・売上高は、リニューアルした「明治ブルガリアヨーグルト」のプレーンタイプが好調に推移しましたが、プロバイオティクスの減収により、前年同期を下回りました。
- ・営業利益は、減収の影響や物流費等の増加により前年同期を下回りました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・売上高は、「明治北海道十勝カマンベールチーズ」や業務用クリームが好調に推移したことに加え、アイスクリームも「明治エッセルスーパーカップ」シリーズが増収となり、前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、主要製品の増収により前年同期を大幅に上回りました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・売上高は、2018年4月からの取引制度見直しによる販売価格の変更やチョコレートの減収により前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、宣伝費等の削減に努めましたが、減収の影響により前年同期を下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、粉ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・売上高は、「ザバス」が好調に推移し、流動食「明治メイバランス」シリーズも増収となった結果、前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、販促費等が増加したものの主要製品の増収により前年同期並みとなりました。

【海外事業】 (海外子会社、輸出)

- ・売上高は、台湾での粉ミルク販売や、牛乳を中心に乳製品が好調に推移した中国子会社の増収が寄与し、前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は、中国子会社の増収により前年同期を大幅に上回りました。
- ・2018年4月より台湾明治食品股份有限公司を連結子会社化しました。

【その他国内子会社】 (飼料、畜産品、砂糖および糖化穀粉、運送等)

- ・売上高は、砂糖商社や畜産品会社の減収の影響がありましたが、物流会社や飼料会社の増収により前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、畜産品会社等の減収により前年同期を大幅に下回りました。

②医薬品セグメント

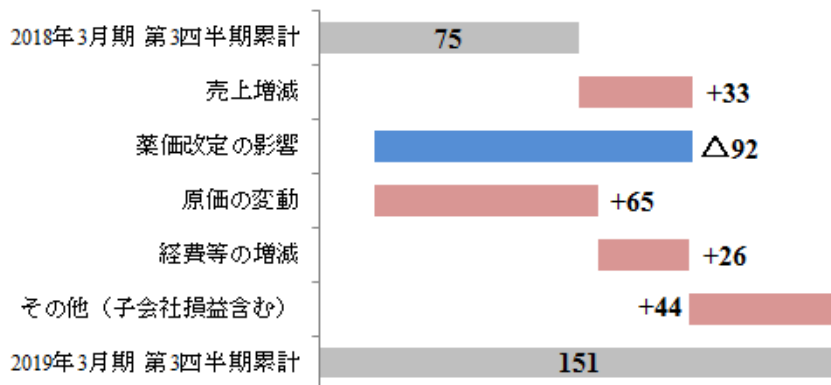
- ・売上高は、2018年4月に実施された薬価改定の影響がありましたが、国内主力品の販売数量の伸長や海外子会社が好調に推移したほか、2018年7月よりKMバイオリジクス社を新たに連結したことにより前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は、前年同期を大幅に上回りました。薬価改定の影響を受けましたが、主力品の増収に加え、原料調達価格の見直しや普及費等の削減でカバーしました。また、新規連結したKMバイオリジクス社のヒト用ワクチン販売も寄与しました。

(単位：億円)

		2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
医薬品	売上高	1,223	1,482	21.2%
	営業利益	75	151	100.2%

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率		2018年3月期 第3四半期累計	2019年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
国内	932	964	3.5%	国内	41	100	141.4%
海外	291	305	4.9%	海外	34	15	△53.5%
生物学的 製剤※	—	240	—	生物学的 製剤※	—	43	—

(注)各事業の売上高・営業利益の合計金額と医薬品セグメントの売上高・営業利益との差は、セグメント内の消去額です。

※KMバイオリジクス社に相当

【国内事業】

- ・売上高は、前年同期を上回りました。薬価改定の影響がありましたが、統合失調症治療薬「シクレスト」やアレルギー性疾患治療薬「ビラノア」が大幅に伸長し、2018年9月より新たに発売したインフルエンザワクチンも寄与しました。
- ・営業利益は、主力品の増収や原料調達価格の見直し等により前年同期を大幅に上回りました。

- ・2018年4月よりMe ファルマ株式会社を連結子会社化しました。

【海外事業】

- ・売上高は、インドやインドネシアの子会社が好調に推移したことにより、前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、輸出品のコストアップにより、前年同期を大幅に下回りました。

【生物学的製剤事業】

- ・売上高は、主力のインフルエンザワクチンや4種混合ワクチン「クアトロバック」が好調に推移しました。
- ・営業利益は、主力品が好調に推移したことにより拡大しました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位：億円)

	2018年3月期	2019年3月期 第3四半期累計	対前期末 増減額	主な増減要因
流動資産	3,830	4,387	557	受取手形及び売掛金+302、 商品及び製品+175、原材料及び貯蔵品+73
固定資産	5,422	5,862	440	建物及び構築物(純額)+169、 機械装置及び運搬具(純額)+152、 建設仮勘定+122
資産合計	9,252	10,250	998	—
流動負債	2,944	3,071	127	コマーシャル・ペーパー+230、 支払手形及び買掛金+59、 短期借入金△85、未払法人税等△71
固定負債	1,356	1,551	194	長期借入金+141
負債合計	4,300	4,623	322	—
株主資本	4,655	5,076	420	利益剰余金+416
その他の包括利益 累計額	217	209	△7	その他有価証券評価差額金△16
非支配株主持分	78	342	263	—
純資産合計	4,951	5,627	675	—
負債純資産合計	9,252	10,250	998	—
有利子負債	1,191	1,476	285	コマーシャル・ペーパー+230、 長期借入金+141、短期借入金△85
自己資本比率	52.7	51.6	△1.1pt	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年11月7日の「2019年3月期 第2四半期決算短信」で公表しました連結業績予想数値は変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,613	22,417
受取手形及び売掛金	195,760	226,005
商品及び製品	86,929	104,513
仕掛品	3,344	3,487
原材料及び貯蔵品	46,194	53,569
その他	23,364	29,009
貸倒引当金	△202	△218
流動資産合計	383,004	438,785
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	319,894	329,860
減価償却累計額	△173,777	△166,841
建物及び構築物(純額)	146,116	163,019
機械装置及び運搬具	504,589	527,780
減価償却累計額	△372,142	△380,112
機械装置及び運搬具(純額)	132,447	147,668
工具、器具及び備品	53,736	55,657
減価償却累計額	△42,763	△43,443
工具、器具及び備品(純額)	10,972	12,214
土地	71,454	69,660
リース資産	2,710	2,944
減価償却累計額	△2,063	△2,271
リース資産(純額)	647	673
建設仮勘定	22,323	34,539
有形固定資産合計	383,962	427,775
無形固定資産		
のれん	10,590	9,835
その他	11,964	13,709
無形固定資産合計	22,555	23,545
投資その他の資産		
投資有価証券	90,874	89,934
退職給付に係る資産	20,777	21,876
その他	24,156	23,247
貸倒引当金	△93	△98
投資その他の資産合計	135,715	134,958
固定資産合計	542,232	586,279
資産合計	925,237	1,025,064

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	120,107	126,077
短期借入金	49,749	41,186
コマーシャル・ペーパー	-	23,000
未払法人税等	18,253	11,094
賞与引当金	10,857	5,874
返品調整引当金	72	1,228
売上割戻引当金	1,943	1,906
その他	93,444	96,816
流動負債合計	294,429	307,183
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	49,353	63,475
退職給付に係る負債	50,330	51,850
役員退職慰労引当金	148	101
その他	15,797	19,691
固定負債合計	135,629	155,118
負債合計	430,059	462,302
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	99,841	100,052
利益剰余金	366,276	407,969
自己株式	△30,521	△30,413
株主資本合計	465,595	507,608
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,188	31,551
繰延ヘッジ損益	△53	△9
為替換算調整勘定	268	△571
退職給付に係る調整累計額	△11,689	△10,038
その他の包括利益累計額合計	21,714	20,931
非支配株主持分	7,866	34,222
純資産合計	495,177	562,762
負債純資産合計	925,237	1,025,064

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	936,824	950,698
売上原価	596,506	605,196
売上総利益	340,318	345,501
販売費及び一般管理費	268,149	265,896
営業利益	72,168	79,604
営業外収益		
受取利息	109	91
受取配当金	1,136	1,219
持分法による投資利益	361	35
為替差益	638	-
その他	1,244	1,662
営業外収益合計	3,489	3,008
営業外費用		
支払利息	565	547
為替差損	-	508
その他	780	653
営業外費用合計	1,345	1,709
経常利益	74,312	80,903
特別利益		
固定資産売却益	4,024	6,514
負ののれん発生益	-	6,584
子会社清算益	464	-
その他	570	325
特別利益合計	5,060	13,425
特別損失		
固定資産廃棄損	3,071	1,494
減損損失	498	1,007
災害による損失	-	1,328
その他	635	1,938
特別損失合計	4,205	5,769
税金等調整前四半期純利益	75,167	88,558
法人税等	23,584	24,411
四半期純利益	51,582	64,147
非支配株主に帰属する四半期純利益	862	2,253
親会社株主に帰属する四半期純利益	50,720	61,893

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	51,582	64,147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,572	△1,657
繰延ヘッジ損益	38	45
為替換算調整勘定	△512	△749
退職給付に係る調整額	1,832	1,654
持分法適用会社に対する持分相当額	275	△181
その他の包括利益合計	12,206	△889
四半期包括利益	63,789	63,257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	62,903	61,111
非支配株主に係る四半期包括利益	885	2,146

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社の食品セグメントに属する株式会社明治のうち菓子工場等及びその一部の国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法)を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

2026ビジョンに基づき当連結会計年度より開始した「2020 中期経営計画」において、コア事業での高シェア・高収益を実現していく方針です。具体的には、健康志向チョコなど市場における競争優位性の高いコア事業の市場が拡大していることから、当社グループは経営資源をコア事業に集中し、これに合わせた設備投資を計画しております。これを契機に、生産設備の稼働状況を検討した結果、長期安定稼働が見込まれるため、定額法により取得原価を耐用年数にわたって均等配分することが、今後のグループの経営実態をより適正に反映するものと判断しました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は 3,391百万円増加しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日 至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	815,042	121,782	936,824	-	936,824
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	458	560	1,019	△1,019	-
計	815,500	122,343	937,843	△1,019	936,824
セグメント利益	64,947	7,569	72,517	△348	72,168

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△348百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△349百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	802,763	147,934	950,698	-	950,698
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	413	365	778	△778	-
計	803,176	148,299	951,476	△778	950,698
セグメント利益	64,922	15,157	80,080	△476	79,604

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△476百万円には、セグメント間取引消去11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△488百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、KMバイオロジクス株式会社の株式の一部を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「医薬品」のセグメントにおいて80,703百万円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社の食品セグメントに属する株式会社明治のうち菓子工場等及びその一部の国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法)を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の食品セグメントのセグメント利益は3,391百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、KMバイオロジクス株式会社の株式の一部を取得し、連結範囲に含めた事により、「医薬品」のセグメントにおいて負ののれん発生益を6,584百万円計上しております。